

第 21 回 星ヶ丘医療センター地域連絡協議会 議事録

日 時：令和 6 年 6 月 27 日（木） 14 時 00 分～14 時 45 分

場 所：星ヶ丘医療センター 新会議室 A

出席者：【院外】地域の医師会代表 2 名、地域の行政職員 1 名、住民代表 2 名、
関係する医療・介護機関 2 名

【院内】院長、副院長、看護部長、事務部長、入退院支援室長、
地域医療連携室長

書 記：地域医療連携室員

-
- 議 題： 1. 地域住民への情報発信について
2. 医療従事者・介護従事者向け研修会の開催報告
3. その他ご案内
4. 当院に対するご意見やご提案について
5. その他
-

1. 地域住民への情報発信について【資料 1】

① オレンジカフェ星の結び 4 月 25 日（木）、5 月 23 日（木）、6 月 20 日（木）

オレンジカフェ（認知症カフェ）を当院会議室で実施した。オレンジカフェは枚方市内で 18 ケ所の事業所が登録をしている。その中でも当院は、市内の病院で初の登録となる。また、認知症のシンボルカラーであるオレンジの花を咲かせる、オレンジガーデニングプロジェクトにも今春参加をした。

オレンジカフェの様子は病院公式 LINE で配信中、「マイライフ新聞」7 月号にも記事が掲載されている。次回開催は 7 月 25 日（木）を予定。

② 人生会議が疑似体験できる「もしバナゲーム」交流会 5 月 9 日（木）

「もしバナゲーム」交流会を当院患者図書室で開催した。“人生の最期にどうありたいか”を、「もしバナゲーム」カードを用いて参加者と疑似体験した。

③ 桜丘団地カフェ 5 月 30 日（木）

枚方市地域包括支援センター松徳会、株式会社 UR コミュニティ大阪住まいセンター共催の「桜丘団地カフェ」が UR 桜丘団地集会所で開催された。地域住民の方 22 名の参加があり、当院からは看護師と医療ソーシャルワーカーが参加。“枚方市版認知症すごろく”を用いたゲームや、認知症についての講義を行った。

（意見・回答）

- ・枚方市役所では、健康福祉部が連携して認知症のサポートを実施している。今後も認知症の啓発活動について協力をお願いしたい。
- ・星ヶ丘医療センターの取組について、市内の病院からも高い関心を持たれており、枚方公済病院でも認知症カフェを開始された。関西記念病院も現在開催を検討している。
- ・オレンジカフェはどのような方が参加されるのか？
→認知症当事者の方の参加は少ない。参加者の 8 割は今後の不安など認知症に関心のある方である。

- ・オレンジカフェに参加する事により、早期受診に繋がるのか？
→認知症の知識を得ることで、安心や早期受診に繋がっている。

2. 医療従事者・介護従事者向け研修会の開催報告【資料2】

(1) 地域 Open セミナー

a. 開催報告

日時、内容等は資料 2-1 を参照。

b. 今後の開催予定

令和 6 年 7 月 11 日（木）14 時から開催予定。講演内容は形成外科医師による「形成外科の関連疾患について」である。医療従事者に加えて保育園などにも案内している。内容等は資料 2-2 を参照。

(2) APN センターWEB 研修会

a. 開催報告

日時、内容等は資料 2-1 を参照。

(質問と回答)

- ・一般的または慢性的な傷は何科を受診すれば良いか。傷の種類で診療科が分かっているのか。
→当院では形成外科で対応。

3. その他ご案内

認知症フォーラム開催予定 11 月 16 日（土）14:00～16:00

第六圏域他職種連携研究会、地域包括支援センター松徳会と共催し、当院会議室で開催する。当日は、京都府から認知症当事者の方とご家族が登壇予定。

4. 当院に対するご意見やご提案について

- (1) 研修会や公開講座に関すること（地域住民・地域医療機関等）
- (2) 当院の診療機能、医療連携に関すること
- (3) 行政や医師会等に対する当院の役割や協力に関すること

(1) について

- ・UR 桜丘団地は、高齢者が多く以前より福祉支援が必要な地域であった。
桜丘団地カフェをきっかけにして今後介入を進めていきたい。

(2) について

- ・星ヶ丘医療センターが、北河内がん拠点病院を辞退したと聞いたが？
→辞退ではなく取下げである。乳腺外科・呼吸器内科の症例件数が不足しており指定要件を満たさなかった。4 月から呼吸器内科の常勤医が配置された為、将来的には要件を満たす事が出来ると考えている。

(3) について委員から意見、質疑は特になし。

5. その他

(1) 前回の地域医療諮問委員会で行った質問に対する回答

令和 6 年 2 月 29 日（木）に開催した地域医療諮問委員会で、委員より下記の意見をいただいた。この場をお借りして回答をさせていただく。

(地域医療諮問委員会でいただいた意見)

- ・ かかりつけ医からの処方薬を、入院時に持参した場合に、退院時に処方する薬の日数と持参薬の残日数が同じになる様に調整出来ないか？

(回答)

→退院時薬の調整に関して、予定入院の紹介患者で下記の患者については可能な範囲で対応させていただく。

1. 紹介患者で、予定入院の際に持参薬を当院で確認出来ている。
2. 日数調整に理解が得られ、薬識、服薬遵守が良好である。
3. 調整対象薬が、当院の採用薬または代替薬で対応が可能である。
4. 投薬日数に制限がある薬の場合、処方日数を越えない。
持参薬の適正化を含め協力させていただくことでご理解をいただきたい。

- ・ 原則、入院中は持参薬の使用は不可であり、使用していなければ、退院時薬の調整をする必要がない。

(2) 災害支援ナース派遣について報告

令和6年1月に発生した能登半島地震において、1月12～18日に公立穴水総合病院へ看護師2名派遣、2月17～20日いしかわ総合スポーツセンターへ看護師1名を派遣した。

以上